

(様式第 10)

形大医管第 1080 号
平成 26 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

山形大学医学部附属病院長

久保田 功 (印)

山形大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒999-8560 山形市小白川町 1 丁目 4-1 2
氏 名	国立大学法人 山形大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

山形大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒990-2331 山形県山形市飯田西 2 丁目 2 番 2 号	電話(023)633-1122
-------------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科							①	無
内科と組み合わせた診療科名等								
1	2	3	4	5	6	7		
8	9	10	11	12	13	14		
診療実績								

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科							有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名							
1心臓血管外科	2形成外科	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
診療実績							

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科
7産婦人科	⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科
13放射線診断科	14放射線治療科	⑬麻酔科	⑭救急科		

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科							有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名							
1歯科口腔外科	2	3	4	5	6	7	
歯科の診療体制							
一般的な歯科診療は診療所等の連携先で行い、特定機能病院である大学病院としては、主に複雑な症例について、医師10名程で診療を行っている。							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1循環器科	2病理診断科	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	床	床	床	601床	637床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年 9月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	316人	12人	320.8人	看護補助者	78人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	9人	1人	9.7人	理学療法士	6人	臨床検査技師	36人
薬 剤 師	31人	0人	31人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	3人	その他	0人
助 産 師	14人	0人	14人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	540人	21人	555.5人	臨床工学技師	11人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	1人	その他の技術員	6人
歯科衛生士	1人	0人	1人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	76人
管理栄養士	6人	0人	6人	診療放射線技師	32人	その他の職員	114人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 26年 10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	9人	眼 科 専 門 医	13人
外 科 専 門 医	23人	耳鼻咽喉科専門医	11人
精神科専門医	7人	放射線科専門医	12人
小児科専門医	14人	脳神経外科専門医	11人
皮膚科専門医	10人	整形外科専門医	21人
泌尿器科専門医	12人	麻酔科専門医	12人
産婦人科専門医	18人	救急科専門医	3人
		合 計	176人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	560.1人	6.1人	566.2人
1日当たり平均外来患者数	1140.8人	53.5人	1194.3人
1日当たり平均調剤数	811.2 剤		
必要医師数			128人
必要歯科医師数			5人
必要薬剤師数			19人
必要(准)看護師数			324人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	心電計	人工呼吸装置	心細動除去装置
集中治療室	129.5 m ²	鉄筋コンクリート	6床	(有)・無	(有)・無	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数	66.53m ² 台	病床数		4床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	49.65m ²			
化学検査室	288.35m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 臨床化学自動分析装置、 血糖・A1c測定システム			
細菌検査室	70.00m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細菌同定/感受性検査装置、 LAMP法測定装置、結核用測定装置			
病理検査室	156.16m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
病理解剖室	40.00m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)			
研究室	309.58m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講義室	127.30m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	収容定員	30人
図書室	7.90m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	800冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	70.3%	逆紹介率	50.7%
算出根拠 A: 紹介患者の数			9,413人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			8,090人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,811人
D: 初診の患者の数			15,947人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
神経変性疾患の遺伝子診断	2人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	6人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
該当なし	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	69人	・膿疱性乾癬	3人
・多発性硬化症	34人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・重症筋無力症	38人	・原発性胆汁性肝硬変	45人
・全身性エリテマトーデス	124人	・重症急性膵炎	5人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	41人
・再生不良性貧血	20人	・混合性結合組織病	28人
・ザルコイドーシス	45人	・原発性免疫不全症候群	1人
・筋萎縮性側索硬化症	21人	・特発性間質性肺炎	11人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	93人	・網膜色素変性症	28人
・特発性血小板減少性紫斑病	19人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	30人	・肺動脈性肺高血圧症	9人
・潰瘍性大腸炎	167人	・神経線維腫症	20人
・大動脈炎症候群	17人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	11人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	18人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8人
・脊髄小脳変性症	29人	・ライソゾーム病	2人
・クローン病	61人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	11人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	70人	・球脊髄性筋萎縮症	4人
		・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	8人
・アミロイドーシス	5人	・肥大型心筋症	3人
・後縦靭帯骨化症	22人	・拘束型心筋症	0人
・ハンチントン病	4人	・ミトコンドリア病	6人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	38人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	6人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	40人	・黄色靭帯骨化症	2人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	9人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	128人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人		

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・別紙1のとおり	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・別紙2のとおり	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(別紙1)

基本／特掲	名 称
基本	地域歯科診療支援病院歯科初診料
基本	歯科外来診療環境体制加算
基本	歯科診療特別対応連携加算
基本	特定機能病院入院基本料※(一般7対1)
基本	特定機能病院入院基本料※(精神13対1)
基本	臨床研修病院入院診療加算
基本	救急医療管理加算
基本	超急性期脳卒中加算
基本	妊産婦緊急搬送入院加算
基本	診療録管理体制加算
基本	急性期看護補助体制加算
基本	看護補助加算(精神)
基本	療養環境加算
基本	重症者等療養環境特別加算
基本	無菌治療室管理加算1
基本	緩和ケア診療加算
基本	精神科身体合併症管理加算
基本	摂食障害入院医療管理加算
基本	がん診療連携拠点病院加算
基本	医療安全対策加算
基本	感染防止対策加算1
基本	患者サポート充実加算
基本	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
基本	ハイリスク妊婦管理加算
基本	ハイリスク分娩管理加算
基本	退院調整加算
基本	データ提出加算
基本	特定集中治療室管理料1
基本	ハイケアユニット入院医療管理料
基本	新生児特定集中治療室管理料1
基本	新生児治療回復室入院医療管理料
基本	小児入院医療管理料2
基本	短期滞在手術基本料2

(別紙2)

基本/特掲	名 称
特掲	高度難聴指導管理料
特掲	喘息治療管理料
特掲	糖尿病合併症管理料
特掲	がん性疼痛緩和指導管理料
特掲	がん患者カウンセリング料
特掲	外来緩和ケア管理料
特掲	移植後患者指導管理料
特掲	糖尿病透析予防指導管理料
特掲	外来リハビリテーション診療料
特掲	外来放射線照射診療料
特掲	ハイリスク妊産婦共同管理料 (I)
特掲	がん治療連携計画策定料
特掲	がん治療連携管理料
特掲	肝炎インターフェロン治療計画料
特掲	薬剤管理指導料
特掲	医療機器安全管理料 1
特掲	医療機器安全管理料 2
特掲	医療機器安全管理料 (歯科)
特掲	歯科治療総合医療管理料
特掲	造血器腫瘍遺伝子検査
特掲	HPV核酸検出
特掲	検体検査管理加算 (IV)
特掲	遺伝カウンセリング加算
特掲	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
特掲	植込型心電図検査
特掲	時間内歩行試験
特掲	胎児心エコー法
特掲	ヘッドアップティルト試験
特掲	人工膀胱
特掲	皮下連続式グルコース測定
特掲	長期継続頭蓋内脳波検査
特掲	脳磁図
特掲	神経学的検査
特掲	補聴器適合検査
特掲	コンタクトレンズ検査料 1
特掲	小児食物アレルギー負荷検査
特掲	内服・点滴誘発試験
特掲	センチネルリンパ節生検 (乳がんに係るものに限る。)
特掲	画像診断管理加算 2
特掲	ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
特掲	CT撮影及びMRI撮影
特掲	冠動脈CT撮影加算
特掲	大腸CT撮影加算
特掲	心臓MRI撮影加算
特掲	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
特掲	外来化学療法加算 1
特掲	無菌製剤処理料
特掲	心大血管疾患リハビリテーション料 (I)
特掲	脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)

特掲	運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
特掲	呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
特掲	がん患者リハビリテーション料
特掲	集団コミュニケーション療法料
特掲	認知療法・認知行動療法
特掲	医療保護入院等診療料
特掲	イソルの局所注入（甲状腺に対するもの）
特掲	一酸化窒素吸入療法
特掲	歯科技工加算
特掲	皮膚悪性腫瘍切除術（悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）
特掲	腫瘍脊椎骨全摘術
特掲	脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術
特掲	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
特掲	人工内耳植込術
特掲	植込型骨導補聴器の植え込み及び接合子付骨導端子又は骨導端子の交換
特掲	乳がんセンチネルリンパ節加算2
特掲	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
特掲	経皮的中隔心筋焼灼術
特掲	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
特掲	植込型心電図記録計移植術及び植型心電図記録計摘出術
特掲	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
特掲	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術
特掲	両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術
特掲	大動脈バルーンポンプ法（IABP法）
特掲	経皮的大動脈遮断術
特掲	ダメージコントロール手術
特掲	腹腔鏡下肝切除術
特掲	生体部分肝移植術
特掲	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
特掲	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
特掲	腹腔鏡下小切開副腎摘出術
特掲	腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術
特掲	同種死体腎移植術
特掲	生体腎移植術
特掲	膀胱水圧拡張術
特掲	人工尿道括約筋植込・置換術
特掲	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
特掲	医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術
特掲	輸血管管理料Ⅰ
特掲	輸血適正使用加算
特掲	自己生体組織接着剤作成術
特掲	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
特掲	内視鏡手術用支援機器加算
特掲	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
特掲	麻酔管理料（Ⅰ）
特掲	麻酔管理料（Ⅱ）
特掲	放射線治療専任加算
特掲	外来放射線治療加算
特掲	高エネルギー放射線治療
特掲	強度変調放射線治療（IMRT）
特掲	画像誘導放射線治療加算（IGRT）

特掲	体外照射呼吸性移動対策加算
特掲	定位放射線治療
特掲	定位放射線治療呼吸移動対策加算
特掲	保険医療機関間の連携による病理診断
特掲	テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
特掲	テレパソロジーによる術中迅速細胞診
特掲	病理診断管理加算2
特掲	クラウン・ブリッジ維持管理料
特掲	ヒト自家移植組織（自家培養軟骨）
特掲	人工乳房及び組織拡張器（乳房用）（組織拡張器一次再建）
特掲	人工乳房及び組織拡張器（乳房用）（組織拡張器二次再建）
特掲	人工乳房及び組織拡張器（乳房用）（人工乳房一次二期的再建及び二次再建）

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
平成25年度脳卒中・心筋梗塞発症登録評価研究事業	成松 宏人	医療情報部	4,500,000	補委 山形県
循環器領域における効果的感染制御の確立	久保田 功	内科学第一講座	900,000	補委 国立循環器病研究センター
脳形成異常を主とする発達期脳障害の病因・病態と治療に関する研究	加藤 光広	小児科	2,000,000	補委 国立精神・神経医療研究センター
食道がんに対する集学的治療の研究	根本 建二	放射線治療科	200,000	補委 国立がん研究センター
ゲノムコホート情報の効果的な収集システムの開発とその有効利用に関する研究	山下 英俊	眼科学講座	3,000,000	補委 国立がん研究センター
MRI感酸素マッピング統合multimodal navigation及び術中MRIシステムを用いた新規脳腫瘍治療法の開発	嘉山 孝正	脳神経外科学講座	2,000,000	補委 国立がん研究センター
がん治療に伴う高次脳機能障害に関する統合的研究	鈴木 匡子	高次脳機能科	700,000	補委 日本学術振興会
新規遺伝子改変マウスを用いた転写因子MafBの気腫化肺形成に関わる機序の探究	柴田 陽光	第一内科	3,300,000	補委 日本学術振興会
耐糖能障害は感染性呼吸器疾患発症の危険因子となりうるか、舟形町疫学研究	大泉 俊英	第三内科	300,000	補委 日本学術振興会
新規遺伝子改変マウスによるCCL1の呼吸器細菌感染症における機能解析	井上 純人	第一内科	1,700,000	補委 日本学術振興会
パーキンソン病治療標的としての α -シヌクレイン発現抑制のin vivo解析	荒若 繁樹	第三内科	700,000	補委 日本学術振興会
環境と遺伝子の相互作用が人格形成に与える影響	大谷 浩一	精神科	1,700,000	補委 日本学術振興会
新しいバイオマーカーを用いた食道癌照射野の個別化	根本 建二	放射線治療科	500,000	補委 日本学術振興会
腹部大動脈破綻におけるMafBの役割解明及びPET/CTを用いた画像化の試み	渡邊 哲	第一内科	1,300,000	補委 日本学術振興会
HRM法と次世代シーケンサーによる早期発症てんかん性脳症の新規病因遺伝子同定	加藤 光広	小児科	500,000	補委 日本学術振興会
色素異常に関する新規分子の同定と機能解析	川口 雅一	皮膚科	1,600,000	補委 日本学術振興会
免疫監視細胞マクロファージを用いた急性炎症応答の評価	川前 金幸	麻酔科	1,200,000	補委 日本学術振興会
聴性定常反応と睡眠脳波を応用した新しい他覚的聴力検査法の開発	伊藤 吏	耳鼻咽喉科	700,000	補委 日本学術振興会
IgA腎症の扁桃病変におけるIgA産生B細胞の発生機序	山川 光徳	病理診断科	3,100,000	補委 日本学術振興会
メタボローム解析を用いたC型肝炎ウイルス増殖に関与する宿主代謝物質群の網羅的解析	渡辺 久剛	第二内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
経胸壁心臓超音波検査による非侵襲的左心耳機能解析法の確立	田村 晴俊	第一内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
Charcot-Marie-Tooth病の病態解明	早坂 清	小児科	1,400,000	補委 日本学術振興会
先天性中枢性低換気症候群の病態解明	佐々木 綾子	小児科	1,500,000	補委 日本学術振興会
IgG4関連疾患の病態の解明と新規分子を標的とした治療戦略の展開	太田 伸男	耳鼻咽喉科	1,500,000	補委 日本学術振興会
新規転写因子MafB遺伝子改変マウスを用いたマクロファージ腫瘍免疫機構の探究	山内 啓子	第一内科	1,600,000	補委 日本学術振興会
微小粒子は、関節リウマチの形質細胞様樹状細胞を刺激し自然免疫反応を引き起こすか	高窪 祐弥	整形外科	1,300,000	補委 日本学術振興会
アディポサイトカインと卵巣発育一多嚢胞性卵巣症候群の治療成績向上を目指して	原 周一郎	産婦人科	1,100,000	補委 日本学術振興会
加齢および慢性炎症による細胞障害が誘導するDアミノ酸発現の解明	鈴木 祐輔	耳鼻咽喉科	1,400,000	補委 日本学術振興会
活性酸素種による心筋障害の病態形成におけるユビキチン転移酵素Itchの機能解析	高橋 大	第一内科	1,400,000	補委 日本学術振興会
Charcot-Marie-Tooth病の病態解明:遺伝子の量的変化の関与	阿部 暁子	小児科	1,600,000	補委 日本学術振興会
眼皮膚白皮症4型の原因遺伝子SLC45A2の機能解析	紺野 隆之	皮膚科	2,000,000	補委 日本学術振興会

子宮頸癌の画像誘導腔内照射の支持療法のランダム化第2相試験	黒田 勇氣	放射線治療科	800,000	補委	日本学術振興会
亜鉛イオンによる骨芽細胞分化促進と骨再生療法の開発	遊佐 和之	歯科口腔・形成外科	1,500,000	補委	日本学術振興会
卵巣がん人工多能性癌幹細胞(iPC)の樹立と機能解析-薬剤抵抗性の観点から	倉智 博久	産婦人科	1,400,000	補委	日本学術振興会
分子標的薬に最適な承認審査を構築する～レギュトリーサイエンスの新たな展開～	吉岡 孝志	腫瘍内科	1,500,000	補委	日本学術振興会
脳脊髄液減少症の診断・治療法の確立に関する研究	嘉山 孝正	脳神経外科	12,308,000	補委	厚生労働省科 研費
傍シロピウス裂症候群の病態に基づく疾患概念の確立と新しい治療法の開発に関する研究	加藤 光広	小児科	5,539,000	補委	厚生労働省科 研費
先天性中枢性低換気症候群(CCHS)の診断・治療・管理法の確立	早坂 清	小児科	4,050,000	補委	厚生労働省科 研費
				補委	

合計38

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

4 枚数ごとに集計数(小計)を記載し、最終ページには合計数を併せて記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Nunomiya K	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	Hyperhomocysteinaemia predicts the decline in pulmonary function in healthy male smokers.	Eur Respir J.2013 Jul; 42(1): 18-27
2	Otaki Y.	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	The impact of renal tubular damage, as assessed by urinary beta2-microglobulin-creatinine ratio, on cardiac prognosis in patients with chronic heart failure.	Circ Heart Fail.2013 Jul; 6(4): 662-668
3	Suzuki K	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	The association between serum uric acid and renal damage in a community-based population: the Takahata study.	Clin Exp Nephrol.2013 Aug; 17(4): 541-548
4	Funayama A	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	Cardiac nuclear high mobility group box 1 prevents the development of cardiac hypertrophy and heart failure.	Cardiovasc Res.2013 Sep 1; 99(4): 657-664
5	Shibata Y	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	Relationship between plasma fibrinogen levels and pulmonary function in the Japanese population: the Takahata study.	Int J Med Sci.2013 Sep 1; 10(11): 1530-1536
6	Shibata Y	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	Elevated serum iron is a potent biomarker for spirometric resistance to cigarette smoke among Japanese males: the Takahata study.	PLoS One.2013 Sep 9; 8(9): e74020
7	Ishigaki D	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	Case Report. ST-segment elevation and ventricular fibrillation shortly after transseptal puncture for left atrial catheter ablation.	J Arrhythmia.2013 Oct; 29(5): 296-299
8	Narumi T	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	The prognostic importance of objective nutritional indexes in a patients with chronic heart failure.	J Cardiol.2013 Nov; 62(5): 307-313
9	Konta T	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	A microarray analysis of urinary microRNAs in renal diseases.	Clin Exp Nephrol.2013 Nov 6. [Epub ahead of print]
10	Nakano H	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	Relationships between values of antibodies to several connective tissue disease autoantigens and pulmonary function in a Japanese general population: the Takahata study.	PLoS One. 2013 Dec 3; 8(12): e81678
11	Konta T	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	Albuminuria is an independent predictor of all-cause and cardiovascular mortality in the Japanese population: the Takahata study.	Clin Exp Nephrol. 2013 Dec; 17(6): 805-810
12	Shibata Y	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	A lower level of forced expiratory volume in 1 second is a risk factor for all-cause and cardiovascular mortality in a Japanese population: the Takahata study.	PLoS One. 2013 Dec; 8(12): e83725
13	Otaki Y	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	Prognostic value of myocardial damage markers in patients with chronic heart failure with atrial fibrillation.	Intern Med. 2014; 53(7): 661-668.
14	Honda S	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	A novel mouse model of aortic valve stenosis induced by direct wire injury.	Arterioscler Thromb Vasc Biol.2014 Feb; 34(2): 270-278
15	Watanabe T	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	Combination therapy of icosapentaenoic acid and pitavastatin for coronary plaque regression evaluated by integrated backscatter intravascular ultrasonography (CHERRY study)-Rationale and design	J Cardiol.2014 Feb 3. [Epub ahead of print]
16	Nunomiya K	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	Relationship between serum level of lymphatic vessel endothelial hyaluronan receptor-1 and prognosis in patients with lung cancer.	J Cancer. 2014 Mar 11;5(3): 242-247

17	Narumi T	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	Increased epicardial adipose tissue volume predicts insulin resistance and coronary artery disease in non-obese subjects with metabolic syndrome.	IJC Metabolic & Endocrine. 2014.03; 3: 14-19
18	Otaki Y	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology	Association of plasma thioredoxin-1 with renal tubular damage and cardiac prognosis in patients with chronic heart failure.	J Cardiol.2014 Mar 28. [Epub ahead of print]
19	佐藤智佳子	第二内科	Impaired mitochondrial beta-oxidation in patients with chronic hepatitis C: relation with viral load and insulin resistance.	BMC Gastroenterol 2013; 13: 112
20	石井里佳	第二内科	Serum prolactin levels and prolactin mRNA expression in peripheral blood mononuclear cells in hepatitis C virus infection.	J Med Virol 2013; 85(7): 1199-205
21	齋藤貴史	第二内科	Dynamics of serum metabolites in patients with chronic hepatitis C receiving pegylated interferon plus ribavirin: A metabolomics analysis.	Metabolism 2013; 62: 1577-1586
22	齋藤貴史	第二内科	Intraductal papillary neoplasm of the bile duct arising from a background of autoimmune hepatitis.	J Med Cases 2013; 4: 654-659
23	齋藤貴史	第二内科	Transmission of hepatitis C virus: Self-limiting hepatitis or chronic hepatitis?	World J Gastroenterol 2013; 19: 6957-6961
24	齋藤貴史	第二内科	Bone marrow cell-based regenerative therapy for liver cirrhosis.	World J Methodol 2013; 3: 65-69
25	Yamaguchi Y	第三内科	Marked improvement in opsoclonus and cerebellar ataxia after the surgical removal of squamous cell carcinoma of the thymus	J Neurol Sci. 2013; 325(1-2): 156-159
26	Kaino W	第三内科	Lower physical activity is a risk factor for a clustering of metabolic risk factors in non-obese and obese Japanese subjects the Takahata study	Endocr J. 2013; 60(5): 617-628
27	Tanji H	第三内科	Comparison of caregiver strain in Parkinson's disease between Yamagata, Japan, and Maryland, The United States.	Parkinsonism Relat Disord. 2013; 19(6): 628-633
28	Hara S	第三内科	Serine 129 phosphorylation of membrane-associated α -synuclein modulates dopamine transporter function in a G protein-coupled receptor kinase-dependent manner	Mol Biol Cell. 2013; 24(11): 1649-1660
29	Iseki C	第三内科	Subclinical declines in the verbal fluency and motor regulation of patients with AVIM (asymptomatic ventriculomegaly with features of idiopathic NPH on MRI): a case-controlled study.	Inter Med. 2013; 52(15): 1687-1690
30	Yamaguchi Y	第三内科	Steroid-responsive thalamic lesions accompanying microbleeds in a case of Hashimoto's encephalopathy with autoantibodies against alpha-enolase.	Inter Med. 2013; 52(11): 1249-1253
31	Susa S	第三内科	A novel G168X mutation and a recurrent 730-731delCT mutation of the porphobilinogen deaminase gene in Japanese patients with acute intermittent porphyria.	Blood Cells Mol Dis. 2013; 51(2): 130-131
32	Daimon M	第三内科	Association of the G-protein beta3 subunit gene polymorphism with the incidence of cardiovascular disease independent of hypertension: the Funagata study.	J Hum Hypertens. 2013; 27(10): 612-616
33	Watanabe K	第三内科	Aortic arch calcification detectable on chest X-ray films is associated with plasma diacron-reactive oxygen metabolites in patients with type 2 diabetes but without cardiovascular disease.	J Nippon Med Sch. 2013; 80(6): 410-419
34	Okada H	第三内科	Neuromyelitis optica preceded by hyperkalemia and a possible association with coxsackie virus group A10 infection.	Intern Med. 2013; 52(23): 2665-2668
35	Sato H	第三内科	Lymphomatosis cerebri with intramedullary spinal cord involvement.	Intern Med. 2013; 52(22): 2561-2565

36	Toyota Kentaro.	小児科	A founder haplotype of APOE-Sendai mutation associated with lipoprotein glomerulopathy.	J Hum Genet. 2013;58(5):254-258doi:10.1038/hg.2013.8
37	Hayashi Makiko.	小児科	Molecular analysis of the genes causing recessive demyelinating Charcot-Marie-Tooth disease in Japan.	J Hum Genet. 2013 May;58(5):273-8doi: 10.1038/jhg.2013.1
38	Kato Mitsuhiro.	小児科	Clinical spectrum of early onset epileptic encephalopathies caused by KCNQ2 mutation.	Epilepsia. 2013 Jul;54(7):1282-7. doi: 10.1111/epi.12200
39	Iakamura Kazuyuk	小児科	Clinical spectrum of SCN2A mutations expanding to Ohtahara syndrome.	Neurology. 2013;81(11):992-998doi: 10.1212/WNL.0b013e3182a43e57.
40	Onoda Tadashi.	小児科	Successful treatment of acute myeloid leukaemia in a patient with ataxia telangiectasia.	Euro J of Haematol. 2013;91(6):557-560doi:
41	Iakamura Kazuyuk	小児科	De Novo Mutations in GNAO1, Encoding a Galpha Subunit of Heterotrimeric G Proteins, Cause Epileptic Encephalopathy.	Am J Hum Genet. 2013;93(3):496-505doi: 10.1016/j.ajhg.2013.
42	Toyota Kentaro	小児科	INF2 mutations in Charcot-Marie-Tooth disease complicated with focal segmental glomerulosclerosis.	J Peripher Nerv Syst. 2013;18(1):97-98doi:
43	Otani K	精神科	Parental overprotection engenders dysfunctional attitudes about achievement and dependency in a gender-specific manner.	BMC Psychiatry 13:345, 2013
44	Otani K	精神科	Relationship of the 24-item dysfunctional attitude scale with the temperament and character inventory in healthy subjects.	Nord J Psychiatry 67(6):388-92, 2013
45	Shibuya Y	精神科	Comparison of entorhinal cortex atrophy between early-onset and late-onset Alzheimer's disease using the VSRAD, a specific and sensitive voxel-based morphometry.	Int J Geriatr Psychiatry 28: 372-376, 2013
46	Ishii G	精神科	Delusional denial of heart and lungs despite physical symptoms of these organs resulting from a severe physical disease in a patient with Cotard's syndrome.	Yamagata Med J 31(1):13-14, 2013
47	矢口順子	皮膚科	Chemoradiation using cisplatin and S-1 in locally advanced giant squamous cell carcinoma of the buttock.	J Dermatol. 2014 Mar;41(3):274-5
48	川口雅一	皮膚科	Nail dystrophy without bony involvement in a patient with chronic sarcoidosis.	J Dermatol. 2014 Feb;41(2):194-5
49	川口雅一	皮膚科	Gene expression and in situ localization of ADAM17 during skin wound healing.	Int J Dermatol. 2014 Mar;53(3):e229-31
50	川口雅一	皮膚科	ADAM17 is involved in the regulation of chemokine expression in keratinocytes.	Int J Dermatol. 2014 Mar;53(3):e233-4
51	二階堂まり子	皮膚科	Agminated pigmented matricoma: a case of a unique tumor with a multifocal appearance composed of neoplastic matrical cells with a significant component of melanocyte.	J Cutan Pathol. 2013 Sep;40(9):823-8
52	荒木勇太	皮膚科	Hermansky-Pudlak syndrome type 4 with a novel mutation.	J Dermatol. 2014 Feb;41(2):186-7
53	岡村賢	皮膚科	Oculocutaneous albinism (OCA) in Japanese patients: five novel mutations.	J Dermatol Sci. 2014 May;74(2):173-4
54	岡村賢	皮膚科	Case of a Mongolian child with extensive Mongolian spots in mucopolysaccharidosis type VI: identification of a novel mutation in the arylsulfatase B gene.	J Dermatol. 2013 Sep;40(9):758-9.
55	門馬文子	皮膚科	Expression of midkine in normal human skin, dermatitis and neoplasms: association with differentiation of keratinocytes.	J Dermatol. 2013 Dec;40(12):980-6

56	門馬文子	皮膚科	Undifferentiated Pleomorphic Sarcoma of the Cheek with Surface Ulceration: Mimicking Spindle Cell Squamous Cell Carcinoma	J Cosm Dermatol Sci 2013: Appl, 3:1-3.
57	林昌浩	皮膚科	Dyschromatosis symmetrica hereditaria.	J Dermatol. 2013 May;40(5):336-43
58	細矢貴亮	画像医学講座	Floating dural sac sign is a sensitive magnetic resonance imaging finding of spinal cerebrospinal fluid leakage.	Neurol Med Chir(Tokyo)53(4):207-212,2013
59	鹿戸将史	放射線診断科	Radiological Image Features of the Atypical Teratoid/Rhabdoid Tumor in Adults:A Systematic Review.	Clin Neuroradiol.2014in Press.
60	鹿戸将史	放射線診断科	Delineation of Malignant Glioma by Turbo Spin Echo Multislice Motion-Sensitized Driven-Equilibrium(TSE-MSDE)with Gadolinium-based Contrast Media:A Case Report.	Magn Reson Imaging.31(7):1251-1253,2013.
61	鹿戸将史	放射線診断科	Visualization of the Trochlear Nerve in the Cistern Using High-Resolution Turbo Spin Echo Multislice Motion-Sensitized Driven-Equilibrium(MSDE).	AJNR Am J Neuroradiol.34:1434-1437,2013.
62	根本 建二	放射線腫瘍学講座、がん臨床センター	Influence of a multidisciplinary cancer board on treatment decisions.	Int J Clin Oncol.18(4):574-7,2013
63	黒田 勇気	がん臨床センター	Acute Radiation Esophagitis Caused by High-dosenvolved Field Radiotherapy with Concurrent Cisplatin and Vinorelbine for Stage III Non-small Cell Lung Cancer.	Technol Cancer Res Treat.12(4):333-9,2013
64	山本 隆	第一外科	Histotopographical Charecterization of the Para-aortic Lymph Nodes in the Area near the Origin of the ThoracicDuct , and its Relationship to Nodal Cancer Metastasis	Hepato-Gastroenterology 60:489-495,2013
65	大泉 弘幸	第2外科	Three-dimensional computed tomography image overlay facilitates thoracoscoic trocar placement.	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery
66	Yamaki T	脳神経外科	A case of Langerhans cell histiocytosis of the skull in which preoperative methionine positron emission tomography was useful in comprehending the spreading of the lesion.	Surg Neurol Int. 2014 Feb 26;5:27
67	Sato A	脳神経外科	Pivotal role for ROS activation of p38 MAPK in the control of differentiation and tumor-initiating capacity of glioma-initiating cells.	Stem Cell Res. 2014. Jan;12(1):119-31
68	Kayama T	脳神経外科	Treatment results of glioblastoma during the last 30 years in a single institute.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2013;53(11):786-96
69	Kayama T	脳神経外科	Phase II clinical study on intraoperative photodynamic therapy with talaporfin sodium and semiconductor laser in patients with malignant brain tumors.	J Neurosurg. 2013 Oct;119(4):845-52
70	Kuge A	脳神経外科	Practical use of a simple technique, insertion of wet cotton pledgets into the tumor resection cavity in transsphenoidal surgery of pituitary tumors, for a better comparison between pre- and intraoperative high-field magnetic resonance images.	J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg. 2013. Nov;74(6):366-72
71	Kayama T	脳神経外科	Bilateral carotid and vertebral rete mirabile presenting with subarachnoid hemorrhage caused by the rupture of spinal artery aneurysm.	Tohoku J Exp Med. 2013;230(4):205-9
72	Sato A	脳神経外科	Resveratrol promotes proteasome-dependent degradation of Nanog via p53 activation and induces differentiation of glioma stem cells.	Stem Cell Res. 2013 Jul;11(1):601-10
73	Kayama T	脳神経外科	Randomized trial of chemoradiotherapy and adjuvant chemotherapy with nimustine (ACNU) versus nimustine plus procarbazine for newly diagnosed anaplastic astrocytoma and glioblastoma (JCOG0305).	Cancer Chemother Pharmacol. 2013 Feb; 71(2):511-21
74	Matsuda K	脳神経外科	Gliomatosis cerebelli, an infantile cerebellar neoplasm that exhibited diffuse infiltration without forming a mass.	Brain Tumor Pathol. 2013 Jul;30(3):180-4

75	佐竹寛史	整形外科	Radiographic features of Kirner's deformity.	Congenit Anom :53(2): 78-82, 2013
76	佐竹寛史	整形外科	Preoperative imaging criteria for unstable osteochondritis dissecans of the capitellum.	Clin Orthop Relat Res: 471(4): 1137- 43, 2013
77	高窪佑弥	整形外科	Inflammatory immune cell responses and Toll-like receptor expression in synovial tissues in rheumatoid arthritis patients treated with biologics or DMARDs.	Clin Rheumatol: 32(6): 853-61, 2013
78	劉興	整形外科	Isocitrate dehydrogenase 2 mutation is a frequent event in osteosarcoma detected by a multi-specific monoclonal antibody MsMab-1.	Cancer Med: 2(6): 803-14, 2013
79	Obata M	産婦人科	Whole-exome sequencing confirmation of a novel heterozygous mutation in RUNX1 in a pregnant woman with platelet disorder.	Platelets 22:1-6, 2014
80	Liu Z	産婦人科	High levels of Wilms' tumor 1 (WT1) expression were associated with aggressive clinical features in ovarian cancer.	Anticancer Res 34(5):2331-2340, 2014
81	Matsuo K	産婦人科	Effects of different trehalose concentrations in a warming medium on embryo survival and clinical outcomes in vitrified human embryos.	Gynecol Obstet Invest 76(4):214- 220,2013
82	Hara S	産婦人科	Fluorazone counteracts the tumor necrosis factor- α inhibition of follicle-stimulating hormone-induced follicular development and estradiol production in an in vitro mouse preantral follicle culture system.	J Ovarian Res 30:6(1):69,2013
83	Kato N	産婦人科	Ovarian tumors with functioning stroma: a clinicopathologic study with special reference to serum estrogen level, stromal morphology, and aromatase expression.	Int J Gynecol Pathol 32(6):556- 561,2013
84	Kojimahara T	産婦人科	Yolk sac tumor of the ovary: A retrospective multicenter study of 33 Japanese women by Tohoku Gynecologic Cancer Unit (TGCU).	Tohoku J Exp230(4):211- 217,2013
85	Takahashi T	産婦人科	Molecular mechanism of poor embryo development in postovulatory aged oocytes: mini review.	J Obstet Gynaecol Res 39(10):1431- 1439,2013
86	Matsumura S	産婦人科	Non-sex cord-stromal ovarian tumors frequently produce and secrete estrogen in postmenopausal women: impact on bone metabolism and abnormal endometrial histology.	J Clin Endocrinol Metab 98(7):2775- 2782,2013
87	Yamatani H	産婦人科	Differences in the fatty acid metabolism of visceral adipose tissue in postmenopausal women.	Menopause 21(2):170-176,2013
88	難波広幸	眼科	Pathological findings of pemphigus vulgaris showing giant cobblestone-like conjunctival papillae.	Case Rep Ophthalmol. 2013 Sep 19;4(3):114-21
89	阿部さち	眼科	Three-dimensional imaging of the inner limiting membrane folding on the vitreomacular interface in diabetic macular edema.	Jpn J Ophthalmol. 2013 Nov;57(6):553-62
90	太田伸男	耳鼻咽喉科	Treatment of ranula by OK-432: Pearls and Pitfalls.	J Rhinologyngo- Otologies 1:26-30, 2013
91	太田伸男	耳鼻咽喉科	Aortic aneurysm rupture as a rare complication of Granulomatosis angiitis.	Journal of Medical Case Reports 7:202, 2013
92	太田伸男	耳鼻咽喉科	Roles of TGF- β and periostin in fibrosclerosis in patients with IgG4-related diseases.	Acta Otolaryngol 133:1322-1327, 2013
93	太田伸男	耳鼻咽喉科	Exploring the limits of the endoscopic approach to frontal sinus osteoma.	Otolaryngology 2013
94	古川孝俊	耳鼻咽喉科	Feasibility and advantages of transcanal endoscopic myringoplasty	Otol Neurotol

95	大和田聡子	耳鼻咽喉科	The relationship between vasomotor symptoms and menopause-associated dizziness	Acta Oto-Laryngol. 134, 146-50, 2014
96	欠畑 誠治	耳鼻咽喉科	Extension of indications for transcanal endoscopic ear surgery using an ultrasonic bone curette for cholesteatomas.	Otol Neurotol. 2014 Jan;35(1):101-7.
97	欠畑 誠治	耳鼻咽喉科	Effects of cholesterol alterations are mediated via G-protein-related pathways in outer hair cells.	Pflugers Arch. 2013 Jul;465(7):1041-9.
98	Kato T	泌尿器科	Acute renal failure during the off period after sunitinib administration: possible mechanism of vascular endothelial growth factor cascade hyperactivation	International Journal of Urology: 20(11), 1149-50, 2013
99	Naito S	泌尿器科	Prognostic Factors of Patients With Metastatic Renal Cell Carcinoma With Removed Metastases: A Multicenter Study of 556 Patients	UROLOGY: 82: 846-851, 2013
100	Nishida S	泌尿器科	Chronic Hemodialysis Patients Without Marked Elevation of Intact Parathyroid Hormone Are Also Good Candidates for Early Intervention With Cinacalcet. Therapeutic Apheresis and Dialysis	Therapeutic Apheresis and Dialysis: 17(3): 325-331, 2013
101	Fukuhara H	泌尿器科	A case of myxoid adrenocortical neoplasm: computed tomography and magnetic resonance imaging characteristics	Rare Tumors: 5(3): e54, 2013
102	横尾倫子	麻酔科	Importance of dental assessment in the intensive care unit: two cases of accidental metal crown migration detected by daily routine chest roentgenograms.	山形医学32(1):36-39, 2014
103	Iino M	Division of Dentistry, Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Medicine, Yamagata University	Solid type primary intraosseous squamous cell carcinoma in the maxilla: report of a new case.	BMC Ear Nose Throat Disord.: 13(1):13, 2013
104	Ishikawa S	Department of Dentistry, Oral and Maxillofacial Plastic and Reconstructive Surgery, Faculty of	Effects of occupational environmental controls and work management on chromosomal damage in dental technicians in Japan.	Int J Hyg Environ Health: 216(1):100-107, 2013
105	鈴木修平	腫瘍内科	Two cases of gastric cancer with peritoneal carcinomatosis successfully responding to combination chemotherapy of S-1 and cisplatin, leading to clinical complete response.	International Cancer Conference Journal: 2(4)201-205, 2013
106	伊藤由理子	腫瘍内科	EGFR L2 domain mutation is not correlated with resistance to cetuximab in metastatic colorectal cancer patients.	Journal of Cancer Research and Clinical Oncology: 139(8)139
107	大竹 浩也	病理診断学講座	Myoepithelial carcinoma of the breast with focal rhabdoid features.	Breast J. 2013;19:100-103
108	大竹 浩也	病理診断学講座	Interdigitating dendritic cell sarcoma and follicular dendritic cell sarcoma: histopathological findings for differential diagnosis.	J Clin Exp Hematop. 2013;53(3):179-84.
109	小林武志	薬剤部	Quantitation of 14C-Oxaliplatin Concentrations in Human Serum Samples by Using Accelerator Mass Spectrometry.	RADIOISOTOPES 62(8): 517-523, 2013

合計109

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 審査の流れについて記載	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 10 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの定義、委員会の設置、実施方法等について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容 臨床研究に係る各種指針に関する説明、倫理委員会への申請方法、申請内容の留意点について	
備考：平成25年度まではe-ラーニングで実施	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

卒後臨床研修修了後の専門医取得に必要な高度先進医療の研修は、大学病院が最も得意とするところである。山形大学では各診療科が専門医に要求される研修内容に対応して緻密に組まれた独自の専門医養成プログラムを有している。

また、山形大学には県内外の主要な教育病院及び山形県と合同で組織する「蔵王協議会」という組織があり、これにより大学附属病院と関連病院が有機的に結びついた研修が可能である。さらに、我が国の医学部で最初に導入した大学院社会人選抜枠を最大限に利用することにより、市中病院に勤務しながら大学院生として専門医取得のための研修や博士号取得のための研究を行うことができる。

2 研修の実績

研修医の人数	69人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
久保田 功	第一内科	教授	35年	
戸澤 智浩	第二内科	助教	20年	
川並 透	第三内科	准教授	30年	
林 博史	精神科	講師	24年	
加藤 光広	小児科	講師	26年	
木村 理	第一外科	教授	35年	
中村 潤	第二外科	講師	25年	
小久保 安昭	脳神経外科	准教授	18年	
佐々木 幹	整形外科	准教授	19年	
紺野 隆之	皮膚科	助教	16年	
長岡 明	泌尿器科	准教授	24年	
山下 英俊	眼科	教授	33年	
太田 伸男	耳鼻咽喉科	准教授	22年	
細矢 貴亮	放射線診断科	教授	36年	
黒田 勇氣	放射線治療科	助教	10年	
高橋 一広	産科婦人科	准教授	28年	
小田 真也	麻酔科	助教	20年	
橘 寛彦	歯科口腔・形成外科	助教	12年	
中根 正樹	救急科	准教授	20年	
福井 忠久	腫瘍内科	助教	19年	
鈴木 匡子	高次脳機能科	教授	29年	
山川 光徳	病理診断科	教授	34年	
山川 真由美	疼痛緩和内科	講師	22年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 久保田 功
管理担当者氏名	薬剤部長 白石 正, 看護部長 那須 景子, 総務課長 成田 博昭, 医事課長 菅原 幹夫

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	病院日誌	総務課	ファイルにて年度毎に分類, 保管している。	
	各科診療日誌	看護部	ファイルにて年度毎に分類, 保管している。	
	病棟日誌	薬剤部	紙面にて入院, 外来別, 月毎に分類, 保管している。	
	処方せん	薬剤部	紙面にて入院, 外来別, 月毎に分類, 保管している。	
手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療情報部 (診療記録室)	カルテ等病歴資料や, エックス線写真は, 電子カルテ上で共にコンピュータによる集中管理を行っているが, 一部の診療科においては, 紙カルテで運用している。 手術記録や紹介状等の文章はスキャンし, タイムスタンプを取得の上, 電子を保存し原本としている。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	各担当でファイルにて年度毎に分類, 保管している。	
	高度の医療の提供の実績	医事課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課		
	高度の医療の研修の実績	総務課		
	閲覧実績	総務課		
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課		
	入院患者, 外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課, 薬剤部		
	第規一則 項第 第一 一条 号の に掲 げ第 一 体項 制各	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	各担当でファイルにて年度毎に分類, 保管している。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医事課		
専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況		総務課		

の号 確及 保 び の第 九 状 条 の二 十 三	専任の院内感染対策を行う 者の配置状況	総務課
	医療に係る安全管理を行う 部門の設置状況	医事課
	当該病院内に患者からの安 全管理に係る相談に適切に 応じる体制の確保状況	医事課

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一條の十一	院内感染のための指針の策定状況	医事課
	第一項各号及び第九條の二十三	院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
	第一項各号及び第九條の二十三	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
	第一項各号及び第九條の二十三	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	第一項各号及び第九條の二十三	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第一項各号及び第九條の二十三	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第一項各号及び第九條の二十三	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第一項各号及び第九條の二十三	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第一項各号及び第九條の二十三	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課
	第一項各号及び第九條の二十三	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター、 医事課
	第一項各号及び第九條の二十三	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター
第一項各号及び第九條の二十三	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	①. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 久保田 功	
閲覧担当者氏名	医学部総務課長 成田 博昭	
閲覧の求めに応じる場所	医学部事務部	
閲覧の手続の概要 閲覧場所等の案内について掲示する予定である。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： (1) 本院における医療の安全管理に関する基本的な考え方 (2) 本院における医療の安全管理のための組織及び体制に関する基本的事項 (3) 本院において医療の安全管理のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針 (4) 本院における医療事故の報告等，医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 (5) 本院における医療事故等発生時の対応に関する基本方針 (6) 本院の医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (7) 本院の患者からの相談への対応に関する基本方針 (8) その他，本院の医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 18回
・ 活動の主な内容： (1) 医療事故等の院内報告体制に関すること (2) 医療事故等の原因分析，改善策の立案及び実施，並びに従事者への周知に関すること (3) 医療事故防止に関する改善策の検証及び見直しに関すること (4) 医療安全管理に関する啓発及び普及並びに研修に関すること (5) その他医療安全管理に関する必要な事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 16回
・ 研修の主な内容： (1) 医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について，従業者に周知徹底を行うことで，個々の従業者の安全に対する意識・安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識の向上等を図る内容 (2) 当院における具体的な事例等を取り上げた内容 (3) 当院全体に共通する安全管理に関する内容	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) あらかじめ定められた手順，事故収集の範囲等に関する規定に従い事例を収集・分析することで，当院における問題点を把握し，組織としての改善策の企画立案及びその実施状況を評価し，これらの情報を共有する。 (2) 重大な事故の発生時には，速やかに管理者へ報告する。また，改善策については，背景要因及び根本原因を分析し，検討された効果的な再発防止策を立案する。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (3名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任 (3) 名 兼任 (14) 名 ・ 活動の主な内容： (1) 医療事故等防止対策委員会の会議に関する事，その他庶務に関する事 (2) インシデント報告の分析及び医療事故防止対策の策定に関する事 (3) 安全管理のための研修，啓発普及，教育等の企画立案及び実施に関する事	

<ul style="list-style-type: none"> (4) 事故等に関する診療録等への記録の記載の確認・指導に関する事 (5) 事故発生時の患者及び家族への対応状況の確認・指導に関する事 (6) 事故等の原因究明についての確認・指導に関する事 (7) 医療安全管理に係る連絡調整に関する事 (8) その他医療安全対策の推進に関する事 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有)・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： (1) 本院における院内感染対策に関する基本的な考え方 (2) 本院における院内感染対策のための委員会及びその他の組織に関する基本的事項 (3) 本院における院内感染対策のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針 (4) 本院における感染症の発症状況の報告に関する基本方針 (5) 本院における院内感染発生時の対応に関する基本方針 (6) 本院の患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 (7) その他、本院の院内感染対策推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： (1) 重要な検討内容について、院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応状況を含め、管理者に報告する。 (2) 院内感染が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従業者への周知徹底を図る。 (3) 感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行う。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 14回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： (1) 院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者に周知徹底を行うことで個々の従業者の院内感染に対する意識を高め、業務を遂行する上での技能やチームの一員としての意識向上等を図る内容。 (2) 病院の実情に即した内容。 (3) 病院全体に共通する院内感染に関する内容。 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ((有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 毎月 1 回院内の感染状況のサーベイランスを実施し、感染対策委員会・感染制御部会議で報告。感染症の発生動向を共有し、院内感染の予防及びまん延の防止を図る。また、ICT ラウンド時等の重点指導項目として活用する。 (MRSA, 多剤耐性緑膿菌等主要検出菌 10 数種を週報として把握) (2) 院内感染対策の指針に則した院内感染対策マニュアル「院内感染対策の手引き」を整備し、各部署に配布、ならびに院内ネットワークにより電子媒体で提供している。また、各部門の感染対策担当者が毎月感染制御部に周知状況を報告、ICT ラウンド時にも周知状況・理解度等を確認することにより、その周知状況の把握・検証を図っている。 	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 10回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">(1) 医薬品の有効性・安全性に関する情報，使用方法に関する事項(2) 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項(3) 医薬品による副作用等が発生した場合の対応に関する事項	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (有・無)・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">(1) 本院で用いる医薬品の採用・購入に関する事項(2) 本院における医薬品の管理に関する事項(3) 本院の患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項(4) 本院の患者に対する与薬や服薬指導に関する事項(5) 本院における医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項(6) 本院と他施設との連携に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">(1) 厚生労働省からの副作用情報(2) 採用医薬品の一増一減徹底(3) 危険薬のリスト作成，病棟への配布(4) 最大投与量のチェックシステム構築	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 10回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 医療機器の有効性・安全性に関する事項(2) 医療機器の使用方法に関する事項(3) 医療機器の保守点検に関する事項(4) 医療機器の不具合等が発生した場合の対応に関する事項(5) 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (☑・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容： 特に保守点検が必要と考えられる医療機器に対する保守点検の状況は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none">①人工心肺装置及び補助循環装置については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。②人工呼吸器については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。③血液浄化装置については、始業時、使用中、終了時の点検及び定期点検(年1回)を実施している。④除細動装置については、定期点検(年1回)を実施している。⑤閉鎖式保育器については、定期点検(年1回)を実施している。⑥診療用高エネルギー放射線発生装置については、始業、終業点検及び定期点検(年4回)を実施している。⑦診療用放射線照射装置については、始業、終業点検及び定期点検(年1回)を実施している。⑧シリンジポンプ、輸液ポンプについては定期点検(年1回)を実施している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 医療機器添付文書等の管理(2) 医療機器の不具合や健康被害等に関する情報を病院長へ報告(3) 医療安全管理部との情報の共有や合同勉強会の開催	